



■下記の5つの津波を想定津波とし、各市町村毎に影響の大きい3つの津波を選定し、それぞれ構造物の「効果あり」・「効果なし」の2パターンでのシミュレーションを行いました。(全6ケース)
 ■この図には、全6ケースのうち、最大の浸水範囲、最大浸水深(注1)を表示しています。
 ■また、代表地点周辺における最大遡上高(注1)および津波到達時間(±20cm、+50cm、第1波)を表示しています。(注2)
 ■地震の震源が想定より陸地に近かったり、想定を超える津波が来襲するなど、条件が異なる場合には、ここで示した時間より早く津波が来襲したり、遡上高が高くなったり、浸水範囲以外でも浸水する可能性があります。
 [シミュレーション条件]
 (1) 想定津波
 ①沖縄本島 北方沖 の想定地震津波
 ②沖縄本島 南東沖 の想定地震津波
 ③沖縄本島 南西沖 の想定地震津波
 ④久米島 北方沖 の想定地震津波
 ⑤久米島 南東沖 の想定地震津波
 (2) 構造物
 効果あり : 防波堤、海岸堤防、防潮堤、河川堤防などの施設が、全て有効に機能したケース。
 効果なし : 防波堤、海岸堤防、防潮堤、河川堤防など施設の機能が失われたと想定したケース。
 (3) 潮位 : 朔望平均満潮位 (各月の最高満潮面を平均した潮位)

※注1 最大遡上高と浸水深 (図1参照)
 最大遡上高は、各地区で津波が到達する最高の標高です。
 浸水深は、各地の地表面からの水面の高さです。
 ※注2 影響開始時間 (±20cm、+50cm) と津波到達時間 (図2参照)
 影響開始時間は、地震発生から、海岸・海域の人命に影響が出る恐れのある津波による水位変化(初期水位から水位変化が±20cm)が生じるまでの時間です。また、図中には、避難への影響がでる恐れのある初期水位からの水位上昇が+50cmに達する時間も表示しています。
 津波第1波到達時間は、地震発生から、津波第1波のピークが海岸に到達するまでの時間です。

